

ベトナム出張報告書 (2014年10月21日-25日)

群馬大学大学院理工学府
電子情報・数理教育プログラム
高井研究室 修士1年白石尚也



朝 4 時位の桐生駅発のバスで空港に向かった。私は飛行機に乗るのも海外に行くのも初めてだった。搭乗手続きなど、見よう見まねでなんとか完了させた。離陸の際は本当に緊張した。空路の無事を祈った。機内は結構エンジン音が鳴り響いていた。機内では、早速ビールを飲んだ。フライトアテンダントの女性たちは、ベトナムの民族衣装アオザイを着ていてみんな綺麗だった。

ベトナムに到着すると想像以上の蒸し暑さに驚いた。

タクシーで宿泊先まで向かったが、バイクの数の多さに驚いた。車やバイクは車線をおかまいなしに走行して

いて、今にもぶつかりそうで非常にとまどった。



宿泊先はホテルマジェスティックサイゴン。5つ星のホテルのようで、非常に豪勢な内装であった。ベトナムは物価がだいたい 1/4 程度ということで、一気にお金持ちになった気がした。



ホテルの前になると、靴磨きを生業としている青年が話しかけてきた。

学会初日は招待講演が行われていた。講演は英語で、頑張って聞いても内容のほとんどを理解することができなかった。講演中に軽いジョークを言って皆笑っている場面もあったが、英語がわからない私は笑うことができなかった。

二日目は論文投稿者による発表が行われた。私の発表は以下のようなものである。

Naoya Shiraiishi, Yasunori Kobori, Nobukazu Takai, Nobukazu Tsukiji,
Kaneya Kotaro, Shunsuke Tanaka, Haruo Kobayashi
“SIDO converter with variable control time duty”



英語での発表は初めてであった。資料作りは非常に時間を要した。留学生に協力してもらい、なんとか完成させることができた。私の作った英語の原稿はほぼ全部修正であった。発表自体は、原稿を作成し、練習もしたので、比較的スムーズに行えたと思う。しかし、質疑応答では、質問者の英語はなんとか聞



き取れたものの、英語での回答をすることができず、非常に情けない思いをした。

夜は市街を散歩した。夜市場が開かれておりそこではTシャツやバッグ、小物類や、食料品など様々なものが売られていた。市場を歩いていると、驚いたことに日本語で

話しかけられるのだ。しかも「なんでやねん」という言葉も使ってくるのだ。なんでそんな言葉知っているのか聞いてみると、日本人に教わったという…。



日本語がはなせる人が多くて、安心した。値切り交渉などして、買い物を楽しんだ。

三日目は学会参加者の皆と観光ツアーに参加した。

ベトナム戦争の戦場となったクチでは、実際に使われたトラップやトンネルなどを見ることができ、リアルに戦場の恐ろしさが感じられた。ここでは本物の拳銃の射撃体験をした。



拳銃は発砲音が非常に大きく、ヘッドフォンをしないと鼓膜が破れそうなほどだった。打ったときの反動も大きかった。

最後には、サイゴン川をクルージングした。町並みの変化が激しく、古い建物から、お洒落な建物まで様々であった。発展途上の様子をうかがうことができた。



4日間という限られた期間ではあったが、非常に充実した日々を過ごすことができた。日本とは異なった文化に触れることができ、自分自身成長できたと感じる。今後、英語力を身につけて多くの人とコミュニケーションをとれるようになりたいと思った。このような機会を与えてくださった小林春夫先生、高井伸和先生、論文ご指導をいただいた小堀康功先生、学会参加のアレンジをしていただいた石川信宣先生に、深く感謝申し上げます。有難う御座いました。